



長尾和宏
(ながお かずひろ)
医療法人社団裕和会理事長、
長尾クリニック院長
1984年 東京医科大学卒業、大阪大学第二内科入局
1991年 医学博士（大阪大学）授与
1995年 兵庫県尼崎市で長尾クリニックを開業、現在に至る
日本慢性期医療協会理事、日本ホスピス在宅ケア研究会理事、日本尊厳死協会副理事長、全国在宅療養支援診療所連絡会理事、関西国際大学客員教授
【医学博士】
日本消化器病学会専門医、日本消化器内視鏡学会専門医、指導医、日本在宅医学学会専門医、日本禁煙学会専門医、日本内科学会認定医、労働衛生コンサルタント
【著書】
『平穀死・10の条件』（ブックマン社）、『抗がん剤・10のやめどき』（ブックマン社）『胃ろうという選択、しない選択』（セブン＆アイ出版）『がんの花道』（小学館）『抗がん剤が効く人、効かない人』（PHP研究所）『大病院信仰、どこまで続けますか』（主婦の友社）など。
【医学書】 スーパー総合医叢書・全10巻の総編集（中山書店）第一巻『在宅医療のすべて』、第二巻『認知症医療』など多数。

自然災害による大 周囲に在宅酸素や人工

規模停電に地域で備える 呼吸器のはいりますか？

医学博士 長尾 和宏

台風には備えることができる

今年は大雨、台風・地震と自然災害が多い年だ。西日本豪雨の被災地支援が続く中、先日の台風21号が襲来し北海道地震が起きた。犠牲になられた方や被災なされた方にお悔やみとお見舞いを申し上げる。今回のような地震・台風による大規模停電に対する在宅患者さんの備えについて考えてみたい。

台風21号は私が経験した中で最大の風台風であった。その被害は広範囲に及んだが私の生活圏域である兵庫や大阪の被害は甚大であった。兵庫や大阪の被害は甚大であった。関西国際空港連絡橋に衝突した大型船や高潮と強風で横倒しになった車両映像に象徴されるようにあちこちに信じられない爪痕を残した。約1カ月が経過した現在もまだ停電している場所がある。表面的には穏やかな生活に戻ったかのように見えるが、酷い低温火傷のよう深い傷は現在もジワジワと広がっている。

地震への備えと台風への備えは全く異質だと思う。地震は予測できないが、台風は予測できるから

するのかという決断に迫られる。外部バッテリーや酸素ボンベを含めて24時間くらいの余裕を持つていて平時から備えておきたい。災害時に地域にそのような在宅患者さんがどれだけいるのか、自治会長や民生委員さんは普段から把握しておくべきだ。常に優先順位やトリアージという言葉を意識して行動すべきである。

認知症や独居高齢者への備え

停電が認知症の人々に与える影響は極めて大きかった。ローソク生活だけでも不安な上に、調理や排泄や入浴にも多大な影響があった。特に認知症や独居高齢者は生活リズムの

乱れが不穏な行動をもたらす。デイサービスやショートステイも停電で休業になるので、普段とはまったく違うリズムを強いられる。認知症の人々は全員調子が悪くなり、負の記憶だけが長引く。結局、長時間の停電で一番困るのは、認知症の人々や独居高齢者と電気依存度の高い在宅患者さんなのである。これらの災害弱者が、平時から行政や医師会を中心にしてマニュアルを作成し備えておくべきだ。

北海道地震も23年前の阪神大震災も初動における「情報不足」が課題であった。情報の発信者自身も被災しているので、発生当日は情報に期待できない。いくら情報社会とはいきだ。

今回の台風21号で、強風による被害で最も大きかったのは「停電」ではない。「充分な備え」とは「たった10分間だけのピーク値」に対する行動でないといけない。

大規模停電時の在宅患者さん

今回の台風21号で、強風による被害で最も大きかったのは「停電」ではない。北海道地震では全道がブラックアウトしたが、電気社会において大規模停電は大きな混乱をもたらす。私は数人の人工呼吸器を装着した在宅患者さんや大量の酸素が無いと命にかかる在宅酸素（HOT）患者さんも10人以上診ている

が、彼らはまさに電気の力で生きている。停電時に一番に思い浮かぶはそうした患者さんの様子である。人工呼吸器に備わっている非常用の内部電源は概ね数時間程度しかもたない。落雷なら停電しても1~2時間以内に復旧することが多い。しかし今回ののような大規模停電が起きると、在宅患者さんの移送のタイミングについて悩む。

停電後、4時間経過した時点から移送作業を開始した。基幹病院の入院ベッドは一杯なので、逐一医師と連絡を取り病院内の講堂の電源を借りる許可を得た。そこはいわば医療避難所になつた、しかしそこへの移動手段が無い。信号は止まつてゐるフル稼働の救急車を待つこともできない。訪問看護師たちが停電の中を走り回り移動の介助を行つた。しかし自宅の電動シャッターが上がりたくないなどの想定外のハプニングが重なつた。平時から停電時の移動手段や非常用電源の確認をやっておかなければいけない。水や食料などの備蓄も大切だが、人工呼吸器や酸素を吸う在宅患者さんは電気をどう確保

が、彼らはまさに電気の力で生きている。停電時に一番に思い浮かぶはそうした患者さんの様子である。人工呼吸器に備わっている非常用の内部電源は概ね数時間程度しかもたない。落雷なら停電しても1~2時間以内に復旧することが多い。しかし今回ののような大規模停電が起きると、在宅患者さんの移送のタイミングについて悩む。

停電後、4時間経過した時点から移送作業を開始した。基幹病院の入院ベッドは一杯なので、逐一医師と連絡を取り病院内の講堂の電源を借りる許可を得た。そこはいわば医療避難所になつた、しかしそこへの移動手段が無い。信号は止まつてゐるフル稼働の救急車を待つこともできない。訪問看護師たちが停電の中を走り回り移動の介助を行つた。しかし自宅の電動シャッターが上がりたくないなどの想定外のハプニングが重なつた。平時から停電時の移動手段や非常用電源の確認をやっておかなければいけない。水や食料などの備蓄も大切だが、人工呼吸器や酸素を吸う在宅患者さんは電気をどう確保

2018 November

世界の視点で情報を発信する総合誌

KORON 11

MONTHLY

発行・株式会社財界通信社 平成30年11月1日発行
毎月1回1日発行 第51巻11号
昭和47年11月10日第三種郵便物認可

提言 第4次安倍改造内閣に物申す
次世代リーダー無き組閣に未来無し

(学校法人東海大学 常務理事、東海大学 学長) (日本赤十字社 葛飾赤十字産院 院長)
リレー対談 山田 清志氏 vs 三石 知左子氏

創立者が蒔いた種は時を経て人生の質に貢献できる大学へ
真の教養が求められている今、もう一度建学の理念に立ち返ろう

特別企画 本誌主幹 大中吉一 TOP対談

① アパグループ代表 元谷 外志雄 氏

需要を創造し、雇用を創出し、適正利益を上げ、納税義務を果たす

② 元道路公団理事・技師長、
公益財団法人前田記念工学振興財団理事 高橋 大輔 氏

日本の高速道路はまだ30%しか完成していない。一刻も早く100%を達成せよ。